

白痴の教育

井石亮一氏談

▲五百人に一人の割合 白痴は先天性と後天性の二種に分れ先天性は誕生の時既に白痴となつて生れ、後天性は生後病氣其他の原因で白痴となるのです、その中先天性のものは教育に依つて脳の缺點や其發達の不充分なる所を補ひ常人に復する事が出來ますが後天性のものは腦脊髓膜炎等の病氣の爲に腦の組織が全然變更して居るのですから是は到底常人に復する事が出來ません、此白痴は五百人に一人といふ割合になつて居りますから、日本全國五千萬人とすると十萬人の白痴が居る譯ですが、この不幸な者に新生面を開かせ不生産的の者を變じて生産的にしやうといふのが白痴教育の目的なのです。

▲白痴の原因 先天性のもの、原因は父母の遠祖の精神の異狀(殊に瘋癲白痴)癲癇、神經疾患、酒精中毒、梅毒結核、腺病性、血族結婚、早婚、

父母の老衰、母の懷妊中の貧血、饑餓、腹部の打撲、外傷、恐懼、憂慮の精神感動等が重なるもの又は誕生瞬間の原因として早産、難産、墮産に於ける頭部損傷、狹骨盤の頭部壓迫、初生兒假死、鉗子分娩等であり、誕生後の原因は小兒急病、癲癇、腦髓腦膜の疾患、外傷、チフス、猩紅熱、麻疹、天然痘、百日咳、日射病等で生後三四年間は精神に障害を來し稀には六七年に及んで猶其害を蒙つて居る者もあります。

▲生來の白痴 これは一口に言ふと發育の足らない者即ち誕生前に腦の中樞を害された者で生れて後にも哺乳作用すら出來ず、又一定の時期に達しても普通感覺視覺共に不完全な爲め身體は小さく血液の循環は弱く體温は通常健康體より二三度低く概して身體が虛弱なものです、是れは運動其他の方法に依つて強健になると教育の効が見えて來ます此種の白痴は癲癲、白痴、其他神經性疾患に罹つたもの、遺傳を受けた者で其他未生、早産、老衰若くは圓熟しない者の子に多く、又懷妊中母の心勞、驚愕等も其の素因となるのです。

▲小頭性白痴 これは字の示す如く頭の小さな者で前額狭く頂きが尖り、後頭骨の扁平な為め小脳が比較的發達して大脳の發達を妨げられた者で其の多くは言語は發しないが感覺鋭く手足の如きも敏捷で木登りの巧い事猿以上の者もあります俗に猿の生變りだと云ふのは是れですが其の他の點はといふと衣食に對する自己の要求を満すの外は凡て無意識に過ぎぬのです。

▲水腫性白痴 俗に鉢破れと云ふもので腦水腫の爲めに精神の發達を妨げられるのですこれは胎兒中に發する事もありますが其の多くは生後數年間中に發するので其の特徴とも見るべきは性質甚だ温良柔順ではあるが之と同時に舉止が頓る魯鈍で敢爲の氣なく常に靜止して居ります此種の兒童は結核性、腺病性の者が多いやうです。

▲急痲性白痴 俗にヒキツケと稱する者で是れが爲めに中樞神經を害し遂に白痴に至る者もありますから家庭に於て最も注意しなければなりません其の痲痺は誕生後直に發する者もあり或は生後數年の後に發する者もあり其の先天性に屬する者は

神經性の兩親、ヒステリー性の母、癲癇又は精神に障礙ある兩親、大酒家、虛弱の親には癲癇の子が多く又嬰兒の中には頭部の打撲損傷、不消化物の過食内臟蟲の存在、高度の音響、精神感動した母の乳、傳染病の初期若しくは其經過中に於けるが如き血液内の中毒物許が一定の運動神經中樞に刺戟を與へた爲めに發し稍や成長した者は不適當な精神の感動、甚だしき恐怖心を起すべき怪談過度の精神興奮等も癲癇を起す素因をなすもので、此の急痲性の白痴は白痴中百分の十五、一割五分を占めて居るのでありますから家庭では例の怪談など小兒の恐怖を増させないやうにして欲しいものです。

▲癲癇性白痴 癲癇は必ずしも白痴ではない偉人奈翁の如きも癲癇性であつたさうです、此疾の爲めに精神を害された兒童の血統を辿つて見ると、必ず其祖先中に神經性疾患に罹つたもの、ある事を發見します此癲癇が餘り頻繁に發すると折角取り込んだ知識も消え失せて遂に白痴に陥り、又甚だ粗暴不規律となつて道徳的感情の頗る鈍る事

があります。

▲痲痺性白痴

特徴は半身若くは一局部が痲痺して足はよろ／＼となり語調は不明となつて常に涎を流すのです、原因は胎兒の中に發する事もありますが多くは生後二三ヶ月乃至十二ヶ月位の小兒に多く稀には三歳以上の小兒にも發する事があります、發病の始めは人事不省となり半身若くは一局部に痲痺を來たす者ですが是れは其腦の一部に萎縮若くは缺損を來す等と原因するのです。

▲外傷性白痴

高くから落ちたり物で撲つたりするのは多く精神障礙の原因となりますが此外分娩時に於ける狹骨盤又は壓迫震動等も其原因の一となりまです、其精神上に及ぶ損害は從分永く續く者もあり或は歳月を経過すると共に次第に消滅して常人に復する事もあり兩親は其子の精神發育の悪いのを見て原因を其の子の守の罪に歸さうとする傾があります、實際に於ての外傷性白痴は至つて少なく兩親が外傷だと思つて居る白痴に付て精細に調べて見ると却て兩親に神經性血統、又は胎兒中に於て母の不注意があつたに基く事を發

見します。

▲焮衝性白痴

これは腦に焮衝を起してそれが爲めに白痴となつた者の稱ですが腦膜炎、猩紅熱、痲疹、百日咳、室扶斯等が焮衝の因となつて精神發達の障礙を來し遂に白痴となるのです、此種の白痴は病後數年を経て始めて其知力の減退するのを見るもので始めは音聲も略ぼ明瞭であつたものが漸次不明となり或は遂に啞者となるものもありま

▲腦硬化性白痴

腦の硬く變ずる病で屍體を解剖して始めて發見される病です此種の白痴は父母の結核、神經性素質、神經性疾患、酒毒、胎兒中の母の損傷、小兒假死、誕生後の損傷等が往々その原因となり生後數日にして發する事もありますが先づ一年位にして起るのが多く或は二三歳の時に發生する事もあります其の發作は痙攣運動障礙等に始まり終に全く痴呆狀に陥つて言語、歩行共に緩漫となり目に映じ耳に響くものに對しても少しも注意を向けないやうになるのです。

▲梅毒生白痴

遺傳性の梅毒の爲めに腦及び神經

等を侵するので三歳乃至九歳頃までは普通の腦力を保つて居ても第二生齒期の頃になると頭痛、眼球震顫癩癩若くは弛緩状態に陥り身體衰弱知力減退して全く痴呆狀に陥り多くは四五年を出でずして死ぬるものです。

▲主なる原因 右に類別した病別及び原因に依つて見ますと白痴となる主なる原因には

- 第一 精神病の血統ある事
 - 第二 結核性の血統ある事
 - 第三 父母の飲酒家たる事
 - 第四 懐妊中父母の疾患精神感動
 - 第五 早婚及老衰の子
- 以上は誕生前の原因ですが誕生後の原因としては
- 第一 小兒の急病
 - 第二 癩癩其他腦病
 - 第三 感動したる母乳
 - 第四 外傷
- 等でありますが、白痴の最も多いのは長男か又は老衰者の末子で長男の多きは早婚の弊であります又老衰の子は體質が弱く是迄充分なる發育を遂ぐる事が出来ません次に多きは私生兒ですが近年は

難産の結果白痴になる者の數が大分多くなつたやうです一般に身體の虚弱に陥つたものと又今迄は難産の結果胎兒を分解して取揚げ又は母子共に死去したるものも醫術の進歩の結果母も子も生存するに至つた代り其子は母の苦痛の刺戟を受け又は出産の際の手術が神經に障礙を來す爲めだと思ひます。

▲野獸と同居の小兒 白痴の原因や病別は略々述べましたが扱て之れを教育する事、即ち白痴教育の始まつた事について一寸變つた話があります、西曆千八百年の頃中部佛國の森林の中に野獸と共に住んで居た一兒童のある事が發見され早速取押へて見ますと小兒は全くの裸體で鼻で食物の好惡を嗅ぎ分け水を飲むにも獸のやうに舌で舐め四肢で匍ひ歩き齒を露出して抵抗し少しも言語を發しないなど其所爲少しも獸類と異つて居りませんでしたが念の爲め之に衣類を纏はせて見ると忽ちにズタ／＼に引裂いて始終逃げやう／＼として居りますので人々も其の處置に窮し又何うかして此兒童を教育してやらうとしましたが遂に不成功に終りました、之が白痴教育の始めて千八百五十年頃

から段々成功するやうになつたのです。

▲教育的分類で、教育上から白痴を見ますと懦弱のもの、興奮性のものとの二つに分れます。又この懦弱生と興奮性と何れも白痴の度合に依つて

極度と低度の二つに分つのが宜しいやうです。現に教育した甲斐の顯はれるのは低度の者に限り極度の白痴に對しては寧ろ出来ない相談であります

▲極度の白痴 この中の懦弱性の者は言語や動作で自分の意志を他人に訴へる事が出来ないのみか目の前にある食物を口へ運びさへすれば空腹が治るといふ事さへ知らぬ者もありモツと甚しいのにならと食物を嚙んで飲み下す事さへ出来ぬものもあり

ます斯ういふのになると一々吭まで食物を押し込んでやらねばなりません、又興奮性の者は常に何んの意味もないので叫び立て支體を動かして騒ぎ立て食物と他の物の見境ひを失つて口に入つたものは何んでも飲み込みます現に或る十二歳の子供が鉛百六十八大釘四本、金の指環一個を呑みそれです少しも異状を呈さなかつた事もあります是等の兒童は到底教化の出来ないものです。

▲低度の白痴 前記のものと同じく多少の知覺を有し且つ其懦弱生の者は普通に見る啞者であつて常に唾液を流し一種の叫聲に依つて自己の要求を人に訴へますが歩行の際には足取りが定まらず精神が茫然として普通の人の睡つて居るのと略ぼ同じですが何うかすると亂暴して取鎮め方に困る事もあり又興奮性の者は目的もなく笑ひ、叫び躍り廻つて殆んど狂人かと思はれる程ですが是等の白痴は教育さへすれば或る程度までは進歩します。

▲教育の方法

元來白痴は或る機能の大層機敏な者と痴鈍な者とありまして或る者は砂糖とキニーネの區別が判らないかと思ふと中には舌で色さへも判明する者がありますから其教育の方法も千差萬別です詰る所興奮性の者は之を導いて組織的の者となし同時に一機能だけ偏して發達しないやうに圖るのです、又懦弱性の者は勤めて精神を興奮させ何にが好きかといふ事をよく探つて段々と糸を曳くやうに至機能の發達を計るのです例へば興奮性破壊的の者なら先づ或る者を相立て、は破

壊させ斯うして幾度となく繰り返す中には當人も其れを壞すのが面白くなつて來て終には教師と一緒に組立て猶進んでは獨りて組立てる様にあり後には破壊的の嗜好が變つて組織となり又懦弱性の者なら種々な方法で耳の感じや支體の感じを惹起させる工風をなし是れを其嗜好に投じて段々注意を引くやうにするのです。

▲教育の効果 此種の白痴は親に對しても兄弟に對しても情といふものがありませす現に瀧野川學園に入園した一兒童の前記に如く入園の當時は親を戀しくも思はず友達の情報もありませんでしたが入園後二年間を経て他の兒童の許へ其母が尋ねて來たのを見て自分にも母が有るかと思ね果ては非常に戀しがつて暑中休暇の來るのを待ち詫びて居りました。

來客に對する時

高等女子師範學校教授

佐方しつ子氏談

來客の應對には其の人を嬉ばせ樂ません事が肝要であるから不快を感じさせぬ爲めには客室を綺麗にして常に裝飾等を心掛け置く

可べきである。

日本の客室では床や棚の裝飾が主であるから季節々々に從て掛物を替へ花置物等を整へ掃除を行届く様にして棚にも相應な書物手函類の美術品を飾り客を待つ間も目を嬉ばせるやうにする。

又主人(婦人に就て言ふ)は立派なものには及ばぬ迄も人に接する事の能きだけ髪や衣服を整頓して置いて不時の來客をも餘り永く待たせぬやうにする。

客に出すものは冬ならば第一に火鉢煙草盆茶それから菓子といふ順序にして懸るに待遇し器物は立派なものには及ばぬが火鉢なら灰や塵埃の附かぬやうに心持よくして火も消えぬやう、分量も適度に灰にも塊の無きやう注意する事である煙草盆の火は殊に此の注意が肝要である常より切炭の相當の大きさのものを作つて置いて灰を善く馴らすと二三時間は消えないものだ。

茶器なども茶渣や缺欠なきやう洗ひ方に氣を着ける又食器類と一所に洗ふと生臭い事などがある、菓子器も同様に綺麗にして蒸菓子なら一人の客に三つか五つ場合を見て紙へ載せて出すも可い。

菓子を出したら又茶を出して先のを下げる丁寧にすれば十五分に二度も三度も茶を替へる必要がある、親しい間柄なら茶盆を置いて主人自ら入れて勤めるも可い。

談話は餘り親密でない間では景色の話新聞雜誌に關したる題目から始めて其内に話に花が咲き興味を湧いて來る。若し又困る場合には寫真や繪葉書帳等を持って來て話の補助とするのも可い。總て主人として客を嬉ばせ樂しませるやうに仕向けるのが應對の好い處である。(讀賣)